

BPO021-07

会場: 301B

時間: 5月25日10:45-11:00

西南日本付加体中のペルム系チャートの産状と層序およびその比較

Occurrence and stratigraphy and comparison of Permian chert in accretionary complexes in southwest Japan

伊藤 剛^{1*}, 松岡 篤²

Tsuyoshi Ito^{1*}, Atsushi Matsuoka²

¹新潟大・院・自然科学, ²新潟大・理・地質科学

¹Sci. Grad. Sch., Niigata Univ., ²Dept.Geology, Niigata Univ.

ペルム紀古海洋環境の解明へのアプローチとして、ペルム系遠洋性堆積物を伴う付加地質体のレビューを行うとともに、秋吉テレーン芳井層群および秩父テレーン両神山層のペルム系遠洋性堆積物の層序の比較を行った。

ペルム系遠洋性堆積物を含む付加地質体が分布する36地域について、これまでに産出報告のある最も古い放射虫化石帯について纏めた結果、ペルム紀古世中期(Pseudoalbaillella lomentaria Range-zone およびその周辺)に相当するものが多いという傾向が読み取れた。これは異なるテレーンにおいても共通してみられる特徴である。

岡山県西部芳井地域に分布する芳井層群はチャート-碎屑岩シーケンスを示すことにより特徴付けられる。これらのチャート-碎屑岩シーケンスは繰り返して累重してパイルナップ構造を呈する。関東山地両神山地域に分布する両神山層はペルム系チャートと緑色岩を主体とし、少量のメラングジュと珪質泥岩を伴う。

芳井層群と両神山層のペルム系層序を比較すると、下部ペルム系の層準に赤色チャートが卓越する点などが共通する。下部ペルム系に赤色チャートが卓越することは丹波-美濃-足尾テレーンでも報告されており(Imoto, 1984など)、テレーンを越えて共通する現象であるといえる。一方で、芳井層群には炭酸塩岩がみられないのに対し、両神山層チャートの最下部にはドロマイトが挟在され、その下位には緑色岩類がみられる。

キーワード: 付加体, 放射虫, パンサラッサ, ペルム系チャート, 西南日本

Keywords: accretionary complex, radiolarian, Panthalassa, Permian chert, southwest Japan